

観光ごみ削減に向けた意識・行動及び排出実態調査

李チン(LI Ting)

キーワード：観光ごみ、2R（リデュース・リユース）、プラスチック、京都市、排出実態、環境意識、環境配慮行動

研究背景及び目的

近年、観光客数の増加と多様化は、京都市等の観光都市の廃棄物管理に様々な影響を及ぼしている。主な課題としては、ごみ量の増加と質の変化・多様化、無分別や誤分別、散乱ごみ等が考えられる。しかし、観光ごみに関する体系的な課題整理や実態把握は不十分である為、本研究では観光客が観光地で消費、排出したごみについて、短期的に取り組める方策を明らかにすることを目指した。

研究方法

京都市の観光ごみの発生実態を把握すると同時に、対策の効果や実現可能性を検討するため、四つの調査を行った。まず、京都市の観光ごみの2R取り組みとステークホルダーの立場を明らかにするため、調査1のステークホルダーに対するヒアリング調査(2018年、N=6)を行った。次いで、京都市の観光ごみに対する2R取り組みの効果を観光客に検証するため、調査2の外国人観光客に向けたアンケート調査(2018年6月、N=126)を実施した。また、具体的な対象品目同定のため、調査3観光ごみの組成調査(2018年11月、6箇所の街頭ごみ、計93kg)を行った。調査2より有効な対策を練る必要性が、調査3で重点的に2Rに取り組むべき品目としてプラスチックごみが、それぞれ判明した為、調査4の観光客に向けたシングルユースプラ製品に関するアンケート(2019年12月、N=404)を実施した。以上より、協力が見込まれる観光ごみの削減策を検討した。

結果及び考察

調査1で同定した京都市の現在の観光ごみの2R取り組みは、調査2より、効果を上げていない可能性が高いことが判明した。調査2では観光客のプラスチック削減意欲が一番高いことも分かった。調査3でも、街頭ごみの組成に占める割合や誤分別実態などから、プラスチックごみが重点的/短期的に2Rに取り組むべき品目と示唆された。調査4より、日本の持続可能な(始末の心を体験する)参加型観光の支持は非常に高かった。それを実現する為に、行政が取り組むべきこととして、観光客へ行動を直接促す働き掛けをすることと、事業者の良い取り組みを後押しすることが考えられる。観光客の2R協力意識を正しく把握した上で、事業者のより一層の協力が欠かせない。具体的な取り組み内容として、1)金銭的インセンティブ、2)多言語表示を含む意識啓発等の対策を組み合わせ、シングルユースプラスチックの2R及びごみの正しい分別から取り組むことが効果的と考えられた。

今後の課題

本調査では行政、宿泊業者、NPO、観光客の取り組みや方針しか分析しておらず、小売業者、一般市民などの関係者の取り組みと意見も調査する必要がある。次いで、観光客の自国・普段及び京都・観光中でのシングルユースプラ廃棄量等については、信頼に足るデータの取得に至らず、観光ごみの量的把握も非常に重要であると思われる。また、プラスチック以外、つまり紙類や生ごみも多い為、それぞれの削減策も欠かせない。